

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 台風第22号については最新の台風予報を参照。
- 10日は、高気圧が日本の東を東へ移動する。
- 10日から11日は、日本の南で気圧の谷が深まり、低気圧が発生する。
- 11日は、前線もしくは気圧の谷が北日本付近を通過する。
- 12日から14日にかけて、大陸の高気圧が日本海から本州付近、日本の東へと移動する。

＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

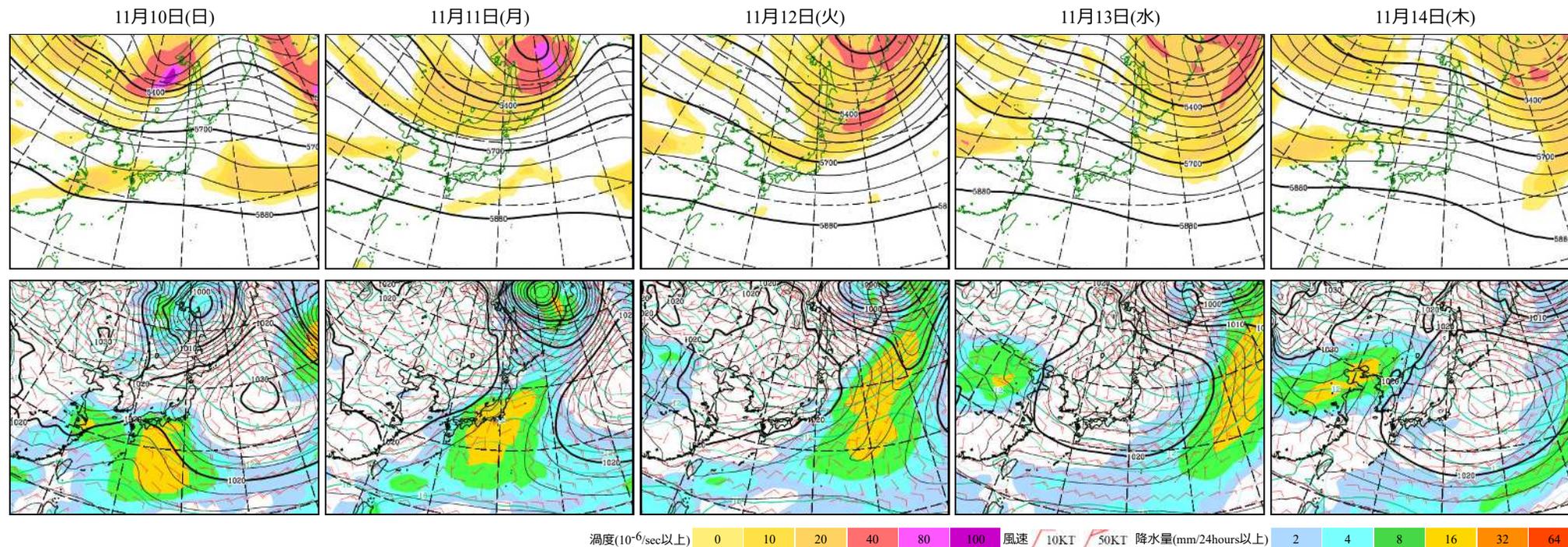
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

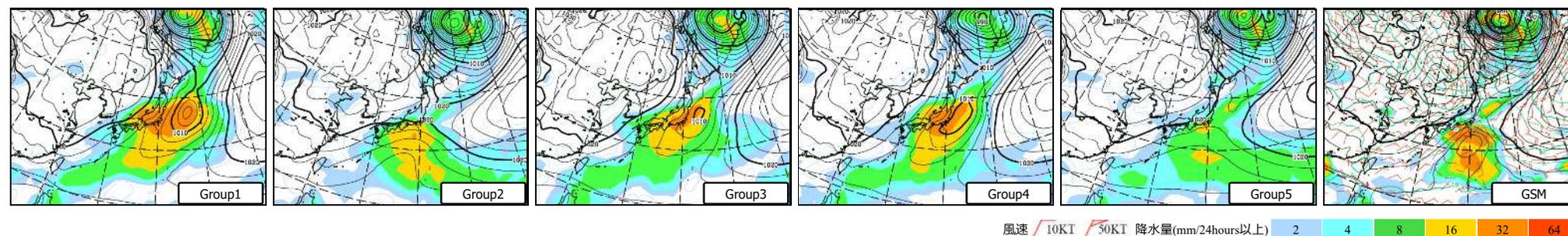


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、11日は日本海側で雨の降る所がある。
- 東日本日本海側は、曇りの日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、10日から11日は曇りや雨の所が多い。12日から13日は晴れる所が多いが、14日は雲が広がりやすい。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、10日から11日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月11日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10日から11日に西・東日本付近を進むトラフは浅めで東進が遅くなった。対応して、日本の南を進む低気圧は弱めとなって東進が遅くなった。12日頃に北日本付近を進むトラフは昨日予想よりもやや深めで東進が早めとなり、その後、日本付近に進むリッジの東進も早まった。期間の後半に北日本付近を進む高気圧の東進が早まり、14日は高気圧が北日本付近を通過して、日本の東へ進む予想となった。
- 11日頃は、各モデルとも日本の南を低気圧が進む予想となっているが、その予想は初期値変わりしており、低気圧のコースや発達程度のばらつきは大きい。低気圧が北緯30度付近を進む予想の他に、日本の南岸付近の気圧の谷が低気圧としてまとまる予想もみられる。モデル間の差は大きく、東・西日本付近への降水域の広がり方についても不確実性がある。
- 期間の終わりに優勢な高気圧が北日本付近を通過する予想は、各モデルが一致して予想するようになった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。